

「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 2019 アイリスオーヤマ賞 記念対談



【写真中央：アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役会長 大山健太郎氏】

【写真右：一般社団法人歓迎プロデュース 代表理事 小野寺紀子氏】

【写真左：一般社団法人歓迎プロデュース 理事 斉藤和枝氏】

先般実施された「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 2019 において、一般社団法人歓迎プロデュースがアイリスオーヤマ賞を受賞したことを記念して、令和 2 年 3 月 4 日、アイリスオーヤマ株式会社代表取締役会長大山健太郎氏と一般社団法人歓迎プロデュース代表理事小野寺紀子氏及び理事斉藤和枝氏との間に対談が行われました。

一般社団法人歓迎プロデュースの紹介

小野寺 この度は「新しい東北」復興ビジネスコンテストでアイリスオーヤマ賞を頂きまして、誠にありがとうございました。私どもの子息は、会長が行われております「人材育成塾」で学ばせて頂いておりまして、今回の受賞にはとてもご縁を感じております。

本日は、まず簡単に弊社の紹介からさせていただきます。私・小野寺と斉藤は、地元の女性達で構成される「気仙沼つばき会」の会員で「気仙沼漁師カレンダー」等を作成しておりました。震災後に、それまで漁師さん達が利用していた銭湯が廃業されるということで、未利用のトレーラーハウスを活用して銭湯を復活させることとしました。その為に設立したのが「一般社団法人歓迎プロデュース」です。銭湯である「鶴亀の湯」の設置場所は魚市場の目の前の好立地です。「鶴亀の湯」の隣には、番台替わりとして、食堂「鶴亀食堂」を配置しました。これら施設の周辺を「みしおね横丁」として 7 つの店舗を設けました。この場所は、いとこが所有していた未利用地を有効活用しています。

大山 こういった地縁・血縁の繋がりが地域の強みですね。

「鶴亀の湯」「鶴亀食堂」の業務内容

小野寺 「鶴亀の湯」のお風呂の大きさは、5人が入る程度の浴槽で洗い場は8箇所ですが、それで狭くて困ったことはないです。

大山 やはりお風呂と食事処が一緒になっているのが良いですね。

小野寺 「鶴亀の湯」「鶴亀食堂」はカツオ船やサンマ船が入港するときは多くの漁師さんで賑わいます。何よりも嬉しいのは、通常は無線を通してしか会話できない漁師さんが、この「鶴亀食堂」では直接会話できる。また、「鶴亀食堂」を訪れた観光客が漁師さんとの会話の中から「漁師が釣った魚をその場で食べる」という話題になって繋がっていく、この繋がりが生まれたことが何よりも良かったです。

一方で、冬になると、船も入ってこないし、訪れるお客さんも少なくなる。風呂を支える筈の食堂の売り上げも少なくなってしまう。まずは、この状況を持続的に可能な状態にすべく、更なる工夫が必要と感じています。

大山 これからの漁業は日本人だけでは成立しません。気仙沼の成長の為には海外から人を呼び込むことが必要であり、既に気仙沼も水産加工の為の人材として、海外から人を受け入れています。私はこの事業は継続可能と思っています。その為には海外から人を更に引き込むべきであり、JETRO や県と連携する必要があります。この事業は収益事業ではなくて街を活性化させる為の事業であり、起爆剤です。気仙沼市長もきっと支援してくれると思います。



「鶴亀の湯」が抱えている課題

小野寺 当初、この話を気仙沼市に持ち込んだときに、「銭湯」では事業継続は困難だと云われました。従って、施設整備については地元の複数の民間事業者やクラウドファンディングから寄付金を頂いて整備費用の一部に充当しましたが、残額は借金しています。

尚、銭湯の燃料は気仙沼市営ガスで、気仙沼の水道水を沸かしています。重油にした方が燃料コストは下がりますが、相応の設備費用負担が生じるため、ガスに頼っています。水道料金は気仙沼市から一部、料金引き下げの支援を頂いています。

大山 事業継続のためには、民間の力だけでなく、官の力も借りて行うべきです。そして、これを漁師さんの為の事業として提案するのではなく、外国人労働者向けの文化事業として進めていくべきだと思います。外国人労働者向けの集会施設は例がないので、これは関心を引く事業になると思います。

現在、多くの水産加工場が抱えている課題は人材確保です。そこで気仙沼には礼拝所もあり、集会施設やハラル料理を提供する食堂も存在するとなれば、外国人労働者も増えていくでしょう。銭湯だけでは難しいので、そのような公益的な業務も追加していけば望ましいの

ではないでしょうか。このような事は商工会議所に相談すると望ましいです。

齊藤 会長のお話では、気仙沼成長の為には海外から人を呼び込むことが必要ということでした。今後は現在よりも更に海外からの労働者の方が増えることを想定すべきことと認識しましたが、これが気仙沼に限らず、各港町で生じることとなれば、他の地域から気仙沼向けに外国人労働者を引き込むような動きが必要になってくるのですね。

大山 外国人労働者は条件の良いところを目指すので、地域間競争が生じます。まずは彼等に気仙沼に来て頂いて、気仙沼の良さをPRして、最終的に気仙沼の方と結婚していくところまでいけば大成功ですね。

「鶴亀の湯」をうまく進めていくためのアイデア

大山 「鶴亀の湯」の円滑な運営の為には、外国人労働力の確保が呼び水となるので、そこは行政の仕事として気仙沼市にご負担頂く。更に具体的な運営の為には各種施設を会員制にして会員企業の福利厚生施設として使って貰う等のアイデアはあると思います。企業の職員は割引価格で施設を利用することが可能になるというシナリオです。

齊藤 そのようにすることで、会員企業は外国人労働者向けの施設にも積極的に関与しているというPR効果を得ることになる訳ですね。

大山 ここに日本語学校があるといいですね。10人程度座れば十分です。外国人労働者の受け入れで最も困るのが言葉の問題です。当社では、中国人労働者向けに学校をつくり教育していますが、小さい企業では、それは困難です。そこで「寺子屋型式」の日本語学校をつくり、勉強会を行うのです。先生としては定年退職された方であればボランティアとしてやって頂けます。生徒の受講料はそれぞれの外国人労働者を雇用している各企業から、例えば月間1人当たり1~2万円程度いただければ宜しいのではないのでしょうか？企業はきっと喜ぶと思います。名付けて「鶴亀寺子屋」。

小野寺 「鶴亀食堂」の夜間の使い道がなかったので、いいアイデアをありがとうございます。「気仙沼市国際交流協会」を私の弟が管理しているのですが、この交流会には皆が喜んで参加していると聞きます。企業も実習生も、働くだけじゃなくて、横の繋がりをとても大事にしていると思います。

大山 この夜の勉強会には必ず商工会議所が協力してくれる筈です。タイアップすれば宜しいのではないのでしょうか？これで、「寺子屋」「ハラル料理」「礼拝所」「お風呂」「食堂」が揃うことになり、成功条件は整います。



気仙沼の魅力

小野寺 気仙沼を気に入って貰えると、外国人労働者の方から、ここで起業したいと考えら

れる方が登場される可能性もありますね。

大山 もともと気仙沼はそのような土地柄ですよ。気仙沼は宮城県であって、宮城県ではない。また、造船所があるから、修理の為に船が寄港してくる。仙台を向かずに外の海を向いている町というイメージです。だからかもしれませんが、地域的には「気仙沼」のヒトはアグレッシブな方が多いですね。東北の中では良い意味で異質な地域です。

小野寺 「鶴亀食堂」で聞く言葉からは、仙台に泊まって牛タンを食べて、翌朝、気仙沼の朝市場で朝御飯を食べるという人が結構多いですね。

大山 三陸沿岸道路が順次開通していくことで、仙台との時間的距離が縮まっていますが、その際は「ライバルは仙台」と思って勝負するしかないでしょう。私自身は気仙沼が大好きですし、ポテンシャルのある町だと思っています。「人材育成塾」で最も成功した場所は気仙沼だと思っています。

東北の産業復興について

小野寺 重要なポイントは「ヒト」だと思っています。私達は特に「箱モノ」を造ってきた訳ではなく、ソフトの面から「ヒト」の繋がりを大事にしていきたいと考えています。

斉藤 「みしおね横丁」においても「ヒト」の交流を拓げていくことが大事だと思っています。また、私たちだけで悶々とするのではなく、関係者を巻き込んでやった方が望ましいことを改めて確信しました。

大山 10年後の生産年齢人口は気仙沼で15%減少します。水産加工業界で外国人労働者が必要となることは明らかです。気仙沼では、この御二方（小野寺さん・斉藤さん）がリーダーシップをとって、町のネットワークを活用しながら、外国人労働者の確保を実現してくれるものと思っています。是非、母親達だけでなく、子供たちも巻き込んで進めて頂くことを期待しております。頑張ってください。



以上